

科学技術政策担当大臣等政務三役と  
総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合  
議事概要

- 日 時 平成28年3月10日（木）10：11～10：45
- 場 所 中央合同庁舎8号館 6階623会議室
- 出席者 島尻大臣、松本副大臣  
久間議員、上山議員、内山田議員、橋本議員、大西議員  
石原内閣府審議官、森本統括官、中川審議官、松本審議官  
星野参事官  
松本理事長（理化学研究所）、堀田理事長（国立がん研究センター）、  
中鉢理事長（産業技術総合研究所）、平理事長（海洋研究開発機構）

○議事概要

○久間議員 ただいまから科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合を行います。

本日の議題は公開で行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、プレスを入れてください。

（プレス入室）

○久間議員 本日は酒井政務官、原山議員、小谷議員、十倉議員が御欠席です。なお、島尻大臣は遅れて到着される予定です。

また、3月6日にCSTI議員に就任された政策大学院大学の上山議員に御出席いただいております。上山議員から一言、御挨拶をお願いします。

○上山議員 政策研究大学の上山でございます。

このたび非常勤として議員に参加させていただくことになりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

議題1. 「国立研究開発法人協議会の設立についての報告」について

○久間議員 それでは、早速議題に入ります。本日の議題は、国立研究開発法人協議会の設立についての報告です。事務局から説明をお願いします。

<星野参事官より説明>

<松本理事長（理化学研究所）より説明>

<中鉢理事長（産業技術総合研究所）より説明>

<平理事長（海洋研究開発機構）より説明>

○久間議員 どうもありがとうございました。

それでは、御意見等がありましたら、お願いします。

○内山田議員 御説明、ありがとうございました。

御存じのように先日閣議決定されました第5期科学技術基本計画においても、産学連携が一つの大きなテーマになっています。先ほど中鉢理事長からも御説明がありましたけれども、我が国の産学連携は現実はなかなかうまくいってないけれども、今回の科学技術基本計画では、この産学連携を通して実行していくという部分がかかりざいます。そういう思いもありまして、我々も研究開発法人の産学の橋渡しをはじめとする機能強化ということをこれまで議論してきたわけでございますので、是非、連携協力分科会、あるいは運営課題分科会において、どうしたら産学連携の実が上がるのか、なぜ、現在、我が国は相対的に産学連携が進んでいないのかということを検討していただきたいと思います。

このような協議会活動の推進によって、やはり研究開発法人というのは世の中の役に立つということや産業競争力を結果として向上させるという機能が高まってくると思います。それによって民間の資金も研究開発法人に流れ、あるいは研究開発法人を通じて、アカデミアに流れる。アカデミアと産業会の人材交流も従来から課題になっているわけですが、これも一足飛びにアカデミアと産業界というところではなかなかやりにくいことがありまして、その解決が研究開発法人を介してやるということで機能するのではないかということも、今、個人的に期待しておりますし、C S T Iの立場でも産業界の立場でもこれは大いに期待しております。

実は、科学技術基本計画には、産業界から研究開発法人、アカデミアへの資金流入をこの5年間で1.5倍に増やすという指針が記載されていますけれども、これはその数値ありきではなくて、今まで話に出てきた活動をやっていけば、私は1.5倍ぐらいは必然的に達成できる

のではないかと。むしろ達成しないと、第5期基本計画そのものの思いが実現しないというふうに強い印象を持っておりますので、是非よろしく願いいたします。

○久間議員 松本理事長、どうぞ。

○松本理事長（理化学研究所） ただいま、中鉢理事長が申しあげましたように、我々としても大きなテーマとして取り組んでまいりたいと思います。理研も自分の研究所のことを言うのはなんですが、昔、理研コンツェルンというのができていまして、産業界と研究所がその当時密な関係を結んでおりました。そういった歴史的な経験もございますし、また最近はAMEDができて、出口志向で産業界、病院等が近い関係になりました。

堀田副会長の方から、少し説明をお願いいたします。

○堀田理事長（国立がん研究センター） 私は、国立がん研究センターの理事長の堀田でございます。

健康医療分野とは国研協として、特に、イノベーションが求められている分野でございます。ナショナルセンターは六つございまして、疾患ベースで組織されていますけれども、日本の疾患のレジストリー、あるいは研究開発を今御指摘いただきましたように、シーズ、開発の初期から産学協同を進めるという立場で、AMEDとともにやってまいりたいと思っています。

もう一つは、我々のところが少し特殊だとすれば、現業部分、すなわち病院部を持っていて、ここの部分をどういうふうに活用していくか。研究と診療の間をどのようにつないでいくかが大きなテーマでございます。今後とも国研協の中で共通課題がたくさんございますので、会長の指導の下に進めてまいりたいと思います。

○久間議員 よろしいでしょうか。

ほかに御意見等がございますか。大西議員、どうぞ。

○大西議員 国の研究機関がこういう格好で、研究者、あるいは研究開発を行う組織として共通性をベースに連携したというのは大変喜ばしいことだと思います。是非前向きにいろいろな課題にチャレンジしていただきたいと思いますが、私は一方で大学にも席がありますので、大学と国研いろいろな付き合いが私の大学でもございます。先ほど産学連携というお話をされましたけれども、そのときに産と学というと、大学と産業界ということですが、国研の果たす役割もかなり重要なのではないかと思います。

国の研究機関はかなり産業界との付き合いが蓄積されてきていると思います。その意味では大学よりも産業界に少し距離が近い存在なのかなと思っています。国研がうまく役割を果たすこ

とよって、大学と産業界、それから国の研究機関というトライアングルが研究の中核としてプログラムを組めれば、いろいろな新しい成果が出るのではないかと。

国際的な競争を考えると時間的猶予がないというか悠長にはしてはられないところもありますので、是非この機会に加速的にそういう動きを促進していくような、例えば国立大学なんかと組織的な国研との関係ができて、クロスアポイントメントというお話が出ましたけれども、研究面、それから教育面でももっと融合していくようなことができていくといいのではないかと思いますので、是非そういう側面から、特に国大協とも松本会長はお話しになって、風通しをよくしていただくとありがたいと思います。

○松本理事長（理化学研究所） ありがとうございます。正しく我々も国国大、国大国と言ってもいいですが、そのトライアングルは重要だと。これは先ほど中鉢理事長の方からもお話がございましたが、大学と国立研究開発法人それぞれ特色があります。その特色をフルに生かすような、総合的になるような仕組みを国大協と私大協、私大協もちろん相手にしないといけないと思いますが、そういった大学群と我々国研の間の話合いの場も申し入れて設けていきたいと思っております。

その中で、共通項があれば共通に議論しますし、特色があるのなら補完的にやろうという話でやってまいりたいと思っております。

○久間議員 ほかに御意見はございますか。上山議員、どうぞ。

○上山議員 先ほど内山田議員の方から、アカデミアに対して民間資金の導入ということが今後5か年計画の中で進めていくべきだという議論がありまして、これは私のように大学ということを見ている人間からすると本当に心強い言葉ですけれども、大学のみならず研究開発法人に民間の資金がどのような形で流入していくかということには様々な仕掛けが必要ではないかと思っております。

取り分け大学に産学連携がなかなか進まないという背景として、産業界からの大学のシステム、マネジメントの在り方、あるいは資金の積み上げの仕方などについて、なかなか理解が得られないというところがあって、本当は国大協みたいところが大学のマネジメントの仕方についてある程度の指針とか、方向性みたいなものを共有するようなことをやるべきではないかと思っておりますけれども、同じようなことが研究開発法人の中で、マネジメントの体系に関して、ある種の手法の共有化みたいなことの方角性があってもいいのではないかとかねがね思っておりました。このたび設立された協議会の中で、例えば産業界との関係においてどのよう

な間接経費の在り方を積み上げていくのか、あるいは、会計システム共通化をしていくとか、様々な手法についての連絡、あるいは知識の共有化みたいな方向性をお考えになってもいいのではないかと考えていたものですから、こういう協議会ができるのと更にそういう議論ができるのではないかと考えて期待しております。

○松本理事長（理化学研究所） ありがとうございます。実は、こういう国研協みたいな組織が必要だろうということは、それぞれの法人の何人かは考えていたわけで、私も最初着任をいたしまして、こういうものがあつた方がいいと思ひまして、働きかけをちょっとしてみました。31が全部集まるとは思ひていませんでした。あつと言う間に集まりまして、11月に予備会議をやりまして、1月に正式発足ができました。

ということは、今、上山議員がおっしゃつたようなニーズが既にあつたということで、それを是非まとめて力として取り上げまして、それと国の政策といかにマッチングをしながらそれぞれが最大の研究成果が得られるかと持ていきたいと思ひております。どうぞよろしく御指導をお願いいたします。

○久間議員 松本副大臣、どうぞ。

○松本副大臣 先ほど、中鉢理事長、平理事長のお話を聞いていて、国の方が果たさなければならぬ課題というのが、具体的に垣間見えたところがあります。税の問題、制度の問題、給与の問題。こういったことについて、是非具体的に箇条書きにさせていただいて、当協会から国の方にきちんと出していただいて、国はそれぞれの課題について、どの法律をどう変えなければいけないのか。法律改正をやらなくてもできるものというのとは何か。税制の課題についても日程感を持って税調の方にきちんと諮つていく。具体的に要望をまとめてできるだけ早く、できるだけ具体的にお寄せいただきたいと思ひております。

○松本理事長（理化学研究所） 松本副大臣、力強いお言葉を頂きましてありがとうございます。我々もそういうことを検討し始めておりまして、具体的にいろいろな法人がいますから、共通な課題もありますし、特殊なこともあるでしょうが、精査いたしまして、せつかく言つていただきましたので、忘れないうちにすぐに、あるいはCSTIの方でもそれを実行していただくように早くまとめていきたくと思ひます。どうぞよろしく御指導をお願いいたします。

○久間議員 ありがとうございます。

私からも二つお願いがあります。一つは、内山田議員からも話がありました産学官連携についてです。欧米に比べて日本は、産学官連携が上手くできていないと思ひます。産と学と官が、

やるべきことを明確にして連携すれば、大きな成果が出ると思います。やるべきことを産、学、官がそれぞれ具体的にリストアップして、重要なものから解決していくように取り組むべきです。開発法人は産学官連携の要になるべき存在ですので、よろしくお願いします。

それから、二つ目ですが、私が産業界にいた頃、コーポレートラボが社内の事業部門に全く役に立ってないじゃないかと批判を受けた時期がありました。それで、正に今日の議論と同じように、事業部門からどれだけ依頼研究を持ってくるかということが重要課題になりました。

そうすると研究所では、将来のための基礎研究費を、事業部門からの依頼研究費の不足分に当てるようになる。それによって、基礎研究が弱体化されるという弊害が出てきたのです。ですから、次の種をまくための基礎研究と、今求められている実用化に向けた研究へのリソース配分のバランスを上手く考えて、長期にわたり産業界に成果を橋渡ししていただきたい。松本理事長がおっしゃった最適化を是非、そのように実践していただきたいと思います。

○松本理事長（理化学研究所） 中鉢副会長からも答えていただきますが、私どもも先ほど私の方で報告をいたしました内容にも触れましたが、内容が非常に幅広いです。基礎研究から応用研究に至るまでいろいろな研究がございます。ですらか、おっしゃったようなバランスも考えながら、しかし産学連携の強化ということも含めて、しかし一方ではおっしゃったように、産学連携に偏りすぎて、基礎が衰えてしまうことがないように、全体としてのバランスを考えながらやっていきたいと思っております。

経験豊かな中鉢副会長の方から少し答えをお願いいたします。

○中鉢理事長（産業技術総合研究所） 大変皆様から力強い御支援のお言葉を頂きましてありがとうございます。民間資金についても内山田議員から1.5倍の増額というお話がございましたが、ちなみに産総研は3倍にせよという高いターゲットを与えられていまして、これは1.5倍以上に頑張らなければいけないと思っております。いろいろな技術営業、そういうリーチを広げる、届かせるための努力もやっており、少しずつですが実感として昨年度よりも効果が上がってきていると感じています。連携協力分科会においては、恐らく各研究所の違いというのはあると思いますが、こういったベストプラクティスを共有しながら進めていきたいと思っております。

大学、アカデミアの方から大西議員、そして松本副大臣からも大変力強いお言葉がございました。現時点では何のエキスキューズもございません。できるだけ速やかに具体的な提案をつくっていききたいと思っております。

会長が5月にまた次の総会を企画しておりますので、遅くともそれまでにはまとめたと思っています。

○久間議員 どうもありがとうございました。

島尻大臣が御到着されましたので、一言御挨拶をいただければと思います。

○島尻大臣 大変お疲れさまでございます。

科学技術政策担当の島尻でございます。今日は、正に第5期科学技術基本計画の実現に向けてのキックオフだということでございます。私も最初からここに座っていたんですけども、また折を見て皆様のお話、あるいは松本副大臣がずっと座っておられましたので、いろいろお話を伺いたいと思っています。

また、新たに有識者議員としてC S T Iに上山議員、十倉議員が就任されました。よろしくお願いたします。本日は、上山議員にも御出席をいただいているということでございます。

お忙しい中、本日は理研の松本理事長、国立がん研究センターの堀田理事長、産総研の中鉢理事長、それから海洋機構の平理事長におかれましては、国立研究開発法人協議会の設立とその取組について御紹介があったということでございます。

今、ちょっと耳打ちがあったんですけども、この参加法人はあつと言う間にこれだけの数があったということ、やはりニーズ、それからやはり必要性ということなんだと思っています。

いよいよ私としては、このキックオフを契機にこの第5期の計画を前に進めていきたいと思う次第でございます。よろしくお願いたします。

○久間議員 どうもありがとうございました。

それでは、以上で、科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合を終わります。

松本理事長ほか、皆さん、どうもありがとうございました。

以上